

7. グランドデザインの実現をめざした今後の取り組み

7-1 今後の方向性

神戸の都心とウォーターフロントは六甲山系を背にして近接しており、個性あるまちなみや地域資源に恵まれている。今後、人口減少や超高齢社会、経済のグローバル化といった社会経済情勢に対応して、これらの強みをいかしながら、市民や国内外からの来街者の多様なニーズに応えるまちの創生をめざしていかなければならない。

グランドデザインに描かれた将来のまちを実現するためには、すぐに着手できる取り組みから広域的な幹線道路ネットワークの形成など外的環境が整うことを条件とする取り組みまでさまざまであるが、試行的な取り組みも積極的に取り入れながら、あらゆる機会をとらまえて、できることから着実に進めていくことが重要である。既に（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOBЕの整備、眺望景観やまちなみ景観形成のためのルールづくり、歩いて楽しい歩行空間づくりなど種々の取り組みが始まっており、今後もその推進に努めていく。

その際には市民・大学等・事業者・行政の協創による長期間にわたる継続的な取り組みが重要となり、そのための推進体制の構築なども進める。

なお、グランドデザインは概ね20～30年後を想定した長期間にわたる将来構想であり、実際の取り組みにおける課題の他に、今後の社会経済情勢等の影響を受けることも当然考えられ、グランドデザイン策定の基本的な視点をふまえ、常に柔軟な対応に努めていく。

7-2 各主体の役割と協創の実践

グランドデザインの実現のためには、市民・大学等・事業者・行政が適切な役割を果たす一協創による継続的な取り組みを進めていくことが重要である。

例えば、歩行者動線における魅力的な空間づくりのためのメニューを考えるとすれば、市民や事業者は整備計画策定に参画するとともに、沿道建物のセットバックや外観などまちなみ景観に配慮したものとし、集客性のある施設を沿道の建築物低層階に設け、ライトアップ・オープンカフェなど公共空間も含めてさまざまな活動を行う。行政は沿道のまちづくり活動を支援・助成しつつ、デザイン性のある快適な歩行者空間等を整備し、まちなみ景観などの規制・誘導を行い、賑わいに資する公共空間の民間活用を促す。

このようにさまざまな取り組みにおいて、各々の主体が、お互いを補い合いながら適切に役割を果たすパートナーシップのもとに協創の取り組みを息長く進めることで、市民自らまちに誇りと愛着を感じることになり、結果として来街者で賑わうまちとなる。

以下に、さまざまな取り組みについて、市民、大学等、事業者、行政の主な役割を示す。

(1) 市民

- ・地区計画、景観形成計画など各種計画段階からの市民一人ひとりの参画及び合意形成の

ための仕組みづくり

- ・道路やオープンスペースなどの緑花・美化など
- ・公共交通利用促進など環境創造にむけた自主的な取り組み
- ・賑わいの創出に寄与するイベントの実施・参加
- ・来街者を温かく迎えるおもてなしの実践
- ・ロコミなどによる神戸の魅力の発信
- ・港の仕事や歴史などの理解

等

(2) 大学等

- ・土地利用や景観形成、空間整備等の方針づくり、地域資源を活用したまちづくり、観光施策に関する調査研究及び助言
- ・都心・ウォーターフロントの活性化に関する市民への情報発信及び学生等の協力
- ・都心・ウォーターフロントへの教育研究施設の開設、企業との共同研究などによる連携

等

(3) 事業者

- ・地区計画、景観形成計画などにおける計画段階からの参画
- ・都心・ウォーターフロントでの商業、業務、観光等の民間事業の展開。特に、ウォーターフロント都心における創造産業や研究開発等の実施
- ・倉庫など歴史的資源の転活用
- ・建築物等による魅力あるまちなみ景観やランドマークの創出、ライトアップによる夜間景観の形成
- ・沿道建築物のセットバックなどによるオープンスペースの創出及び低層階への集客施設等の配置
- ・公共交通及び観光交通の拡充（料金、乗り継ぎ、利用促進策での連携等）、コミュニティサイクルの運営
- ・オープンスペース等を活用したイベントの実施と参加
- ・屋上緑化・壁面緑化、再生エネルギーの導入など低炭素社会にむけた取り組み
- ・エリアマネジメントによる地域でのさまざまな取り組みへの参画
- ・情報発信における連携及び手段・内容の充実

等

(4) 行政

- ・空間整備計画、地区計画、景観形成計画などの策定
- ・低未利用地やウォーターフロント都心での開発事業者等の誘致
- ・土地利用制度の運用、歴史的資源活用のための支援・助成
- ・まちなみ景観や夜間景観などさまざまな景観形成のための誘導、規制、助成、修景整備

等

- ・歩道・自転車道・オープンスペース・各種公共施設の整備、リニューアルを含めた維持管理
 - ・都心・ウォーターフロントへの自動車交通の流入抑制及び国道 2 号分断感緩和対策の実施
 - ・陸海における主要な交通結節点の機能強化など公共交通利用促進策の実施
 - ・オープンスペース等を活用したイベントの実施、支援
 - ・情報発信における各主体の連携促進、手段・内容の充実
 - ・国内外のデザイン都市及び関西諸都市との事業連携や情報発信の強化
 - ・各種制度・規制緩和等の行政間調整
- 等

7-3 今後の取り組みの進め方

(1) 今後の取り組みの展開

グランドデザインの実現をめざした取り組みについては、継続的に取り組むべき内容もあれば、短期・中期・長期と段階的に取り組むべき内容もある。個々の取り組みを進める上ではさまざまな課題が想定されるが、社会実験など試行的な取り組みも積極的に取り入れながら、あらゆる機会をとらまえて、できることから着実に進めていく。

以下に、今後の取り組みの進め方の概略を示す。

①継続的な主な取り組み

- ・都心・ウォーターフロントにおける防災事業（防潮堤・ポンプ場の整備など）
- ・既存の商業業務施設などの機能強化・魅力向上
- ・地区計画・景観形成市民協定等を通じた建物の意匠検討・セットバック・ライトアップや緑花（屋上緑化、壁面緑化、飾花）など、眺望景観やまちなみ景観などの保全育成
- ・歩行者・自転車空間の拡大などによる自動車流入抑制、公共交通利用促進
- ・歩道・自転車道・オープンスペース・各種公共施設の良い維持管理、賑わいのための仕掛けづくり
- ・道路やオープンスペース等を活用したイベントの拡充
- ・国内外への情報発信、クルーズ船の誘致
- ・環境創造の場づくりに資するさまざまな取り組みの実施

②段階的な主な取り組み

短期的な取り組みとして、全体の起爆剤となるような事業をハード、ソフト両面で進めていき、中長期的な取り組みにつなげていく。

特に、旧神戸生糸検査所については、“創造と交流”の拠点である神戸デザインハブとして（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOBELを平成 24 年度に開設するとともに

に、新港第1突堤についても、引き続き、民間事業者の誘致に鋭意取り組んでいく。



旧神戸生糸検査所（旧館）



旧神戸生糸検査所（新館）

（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOB E

短期的な取り組み

【全体】

- ・新たな公共交通（陸上）の段階的な導入、コミュニティサイクルの運用
- ・三宮駅の交通結節機能の強化

【西ゾーン】

- ・ハーバーランドでの商業業務・観光機能の強化・リニューアル
- ・ハーバーランド及びメリケンパークの駐車場等における開発

【中央ゾーン】

- ・新港第1突堤を中心とした民間開発、新たなランドマークの創出、オープンスペースや水際プロムナード整備など
- ・ポートターミナルなど海上交通ターミナル機能の強化
- ・倉庫の転活用にむけた各種調査、検討
- ・（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOB Eの開設（旧神戸生糸検査所のリニューアル）

「デザイン都市・神戸」を担う人材の育成・集積、生活デザインを軸とした地域社会貢献、情報発信・交流のための各種事業の実施

【東ゾーン】

- ・JR貨物神戸港駅跡地における開発計画の策定及び事業着手

【中央継起拠点】

- ・波止場町1番地でのオープンスペースの整備（西側半分）

中期的な取り組み

【全体】

- ・新たな公共交通（海上）の段階的な導入

【西ゾーン】

- ・ハーバーランドでのビジターバスの整備
- ・メリケンパークや中突堤中央ビルなど既存施設のリニューアル、海上交通のターミナル機能強化

【中央ゾーン】

- ・新港突堤基部での段階的な再開発事業の着手
- ・倉庫群など歴史的資源の転活用（一部）
- ・再開発事業に伴うオープンスペース、水際プロムナード、視点場の整備（一部）
- ・新港第1突堤基部でのビジターバースの整備
- ・観光バス拠点整備

【東ゾーン】

- ・JR貨物神戸港駅跡地での事業展開
- ・旧神戸生糸検査所～神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園）～HAT神戸に至る東西の歩行者・自転車動線の整備

長期的な取り組み

【全体】

- ・広域的な幹線道路ネットワークの形成に応じた自動車交通の流入抑制、国道2号分断感緩和対策

【中央ゾーン】

- ・新港突堤基部での再開発事業の展開
- ・倉庫群など歴史的資源の転活用
- ・再開発事業に伴うオープンスペース、水際プロムナード、視点場の整備

【東ゾーン】

- ・JR貨物神戸港駅跡地及びその周辺での開発事業の展開

【中央継起拠点】

- ・波止場町1番地でのオープンスペースの整備（全域）

（2）今後の推進体制について

グランドデザインの実現のためには、さまざまな取り組みについて、市民・大学等・事業者・行政の協創による継続的な取り組みが求められる。その取り組みを各主体間のパートナーシップのもとに、有機的・効果的に進めていくため、常に相互に情報を共有し、皆でアイデアを出して工夫をすることが有益である。特に、各種の計画、具体の開発プログラム・事業、イベント、情報発信など各取り組みにおける連携や相乗効果を狙った施策などが期待される。

このため、将来的には自律的・持続的なエリアマネジメントも視野に入れながら、まちづくり団体・事業者・有識者・関係行政機関などを構成員とする柔軟で実効性のあるグランドランドデザインの推進体制（プラットフォーム）をつくり、その英知と熱意を結集して取り組みを進めていく。

付属資料

1. 検討委員会経緯

(1) 「港都 神戸」グランドデザイン検討委員会

①委員等一覧

	氏 名	所属・役職
まちづくり団体	片山 泰造 富岡 良典 森本 啓久	みなと元町タウン協議会 副会長 旧居留地連絡協議会 常任委員会委員長 三ノ宮南まちづくり協議会 会長
港湾関連団体・企業家協会・NPO等	青井 清一 (花崎 輝久) 加藤 琢二 金指 光司 叶屋 宏一 国則 晋一郎 佐藤 武 杉山 知子 星加 ルリコ 渡辺 真二	兵庫県港運協会 会長代行(後任) 兵庫県港運協会 会長(前任) 神戸旅客船協会 会長 株ポトマック 代表取締役 株クリムソフットボールクラブ 代表取締役社長 ハーバーランド運営協議会 兵庫県倉庫協会 理事 NPO 法人 芸術と計画会議(CAP) 代表 株ルリコプランニング 代表取締役 メリケンパーク協議会 会長
学識経験者・有識者等	石黒 一彦 栗木 契 佐々木 宏幸 高橋 一夫 安田 丑作(会) 安田 義秀	神戸大学大学院海事科学研究科 准教授 神戸大学大学院 経営学研究科 准教授 神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科 准教授 流通科学大学 サービス産業学部 教授 神戸大学名誉教授 神戸商工会議所 理事・地域振興部長
関係官庁	天羽 孝司 梶谷 勝弘 加藤 栄 杉中 洋一	財務省 神戸税関総務部企画調整室 室長 国土交通省 第五管区海上保安本部 総務部長 国土交通省 神戸運輸監理部 総務企画部 海事交通計画調整官 国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部 地域港湾空港調整官
オブザーバー	前西 勇人	財務省 近畿財務局 神戸財務事務所 統括国有財産管理官

②開催経緯

平成22年7月～平成23年3月において、計5回検討委員会を開催

(2) パブリックコメント

平成23年2月～3月

2. 参考文献

- (1) みなと神戸ーいきいきプラン(平成17年2月 神戸市)
- (2) 提言 波止場町1番地の将来像ー“みなとまち神戸”の記憶を未来へー(平成20年11月 都心とウォーターフロントを考える会)
- (3) 提言 「港都 神戸」の創生 都心・ウォーターフロントのグランドデザインに向けて(平成21年11月 都心・ウォーターフロント研究会)
- (4) 第5次神戸市基本計画(神戸づくりの指針、神戸2015ビジョン)(平成23年2月 神戸市)

「港都 神戸」グランドデザイン

2011年3月

神戸市企画調整局企画調整部総合計画課

〒650-8570

神戸市中央区加納町6丁目5番1号

TEL (078) 322-5031

神戸市広報印刷物登録 平成22年度第446号

(広報印刷物規格A-1類)